

日交研シリーズ A-762

平成 30 年度自主研究プロジェクト

「消費者向け小口貨物輸送における「ラストマイル」の多様化に関する研究」

刊行：2019 年 12 月

消費者向け小口貨物輸送における「ラストマイル」の多様化に関する研究

Diversification in “Last Mile Network” for Delivery to Consumers

主査：林 克彦（所属 流通経済大学）

Katsuhiko HAYASHI

要 旨

ネット通販の急成長が続き、宅配便の取扱量は急増を続けている。労働集約性が高いラストマイル（配送）では、チーム集配方式や受取ロッカーの導入等の様々な試みが行われている。これまでネット通販事業者は、商品配送を宅配便事業者に依存してきたが、独自に配送専門事業者を組織化してラストマイルに主体的に取り組む動きが活発化している。本研究プロジェクトでは、宅配便事業者やネット通販事業者による消費者向け小口貨物輸送における輸配送ネットワーク再構築についてラストマイルでの取り組みを中心に、諸外国の事例を含めてヒアリング・実地調査等により収集、分類するとともに、研究会において生産性、効率性、環境への影響等の視点から分析することを目指した。特にラストマイルの様々な取り組みについて、既存文献のサーベイを行ったうえで、日本や中国、EU における最近の動向を研究することが重要となる。また、オープン型受渡しロッカーの整備、分散型配送拠点の設置、軽自動車や電動バイクによる配送ネットワーク化、ICT 活用等の具体的事例について分析を行う。

以上を踏まえて、本稿ではまず、第 1 章では、ネット通販事業者の荷物発送量および宅配便事業者の取扱量から、日本におけるラストマイルの変化を明らかにした。第 2 章では、消費者視点からの配送オプションの選択について分析するための現状について整理した。そのうえで、第 3 章では中国のネット通販のラストマイルに関して、消費者に商品が届くまでの配送について実態を把握して、直面している課題と今後の方向性を明らかにした。そして第 4 章では、環境問題へ積極的な対応をとってきた EU のラストマイルにおける革新的な取り組みについて、Luigi et.al. (2018)に基づきレビューした。

キーワード：宅配便、ラストマイル、ネット通販、消費者

Keywords: Parcel Delivery Service, Last Mile, E-Commerce, Consumers